

～～会社から教わったこと～～

娘が生まれた翌年に今の会社に勤めてから、来年春で30年になります。
現在は、2人の子供も親元を離れ、夫婦水入らずの生活を楽しく送っています。
会社では、年齢的に、私が一番の年配者となりました。
前社長から続く会社の理念は、ぶれることなく私たちスタッフの中に浸透しています。
『意識が変わると、行動が変わる。行動が変わると習慣が変わる。習慣が変わると人間性が変わる。人間性が変わると人生が変わる。』
この教えのとおり、ここまで素晴らしい人生を歩ませていただきました。
今は、もうしばらくお役に立ちたいと思っている日々です。



横田 憲一

私のつぶやき

～～家族の一員～～

私の家族は両親と妹2人、そして猫が1匹です。猫は私が中学生くらいのころに家にやってきた、元野良猫です。年齢はもう17歳、人間でいうと84歳くらいと高齢なのもあって、最近では少し体調を崩すことが増えてきました。
先日は入院が必要なほど弱ってしまい、実家を離れている妹2人も心配して顔を見に帰ってきましたが、そうやって家族が顔を合わせる機会を作ってくれたことに感謝しなければならないのかもしれません。
人間の言葉がわからないのをいいことに、彼の目の前で「次は犬を飼おうか」なんて会話が行われたりしていますが、これからも家族の一員として大切にしたいと思います。



原 光

🌸10～12月の税務・お知らせ🌸

- ・10月・・・社会保険(厚生年金)料率の変更
- ・11月・・・所得税 第2期分予定納税額の納付
- ・12月・・・給与所得の年末調整



お休みカレンダー

2019年 10月							2019年 11月							2019年 12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

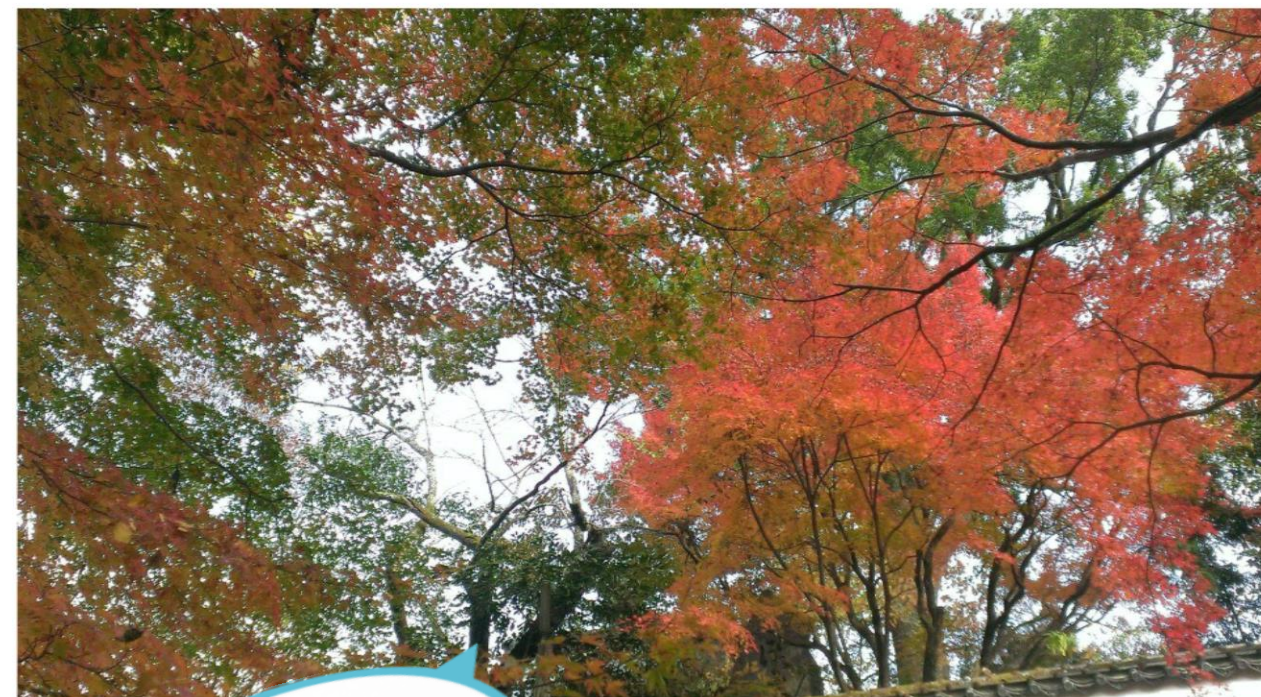
わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

※ 過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

かけはし

Vol. 42
秋号

2019年10月



紅葉の季節、
到来です!! (*'▽')

肌寒さに、カボチャたちも
身を寄せあっているよう
です (^^♪



〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>



ビジネスプラン / あんの会計

こんにちは、安野広明です。
いつもニュースレター「かけはし」をお受け取りいただき、ありがとうございます。



代表取締役
安野 広明

去る9月13日に、毎年恒例のビジネスプラン特別講演会を開催しました。お陰様で約300名の方々がご参加下さり、大盛況に終えることができました。講師をおつとめいただいたS・Yワークスの佐藤芳直先生やお出かけ下さった皆様には、心より感謝いたします。
また、同封のチラシにもございますように、来年の1月3日に、弊社の地域貢献活動である「コメディ・クラウン・サーカスin益田」を開催いたします。
「冬休み、遊びに行く場所が少ない子供たちに、親子3世代で楽しめるコメディ・クラウン・サーカスというイベントを通じて、ご家族と一緒に地元で楽しい思い出をつくり、ひいては、愛郷心（＝故郷を愛する心）を育んでもらいたい」という想いで、毎年お正月に弊社で主催しています。今回で5回目となりますが、過去には満員御礼となった人気イベントですので、お早めにチケットをお買い求め下さい。なお、「会計事務所がサーカスを主催している」という珍しさもあってか、大変光栄なことに、内閣府補助事業の地方創生「連携・交流ひろば」のサイト内で、弊社の同活動を取り上げていただきました。弊社のホームページからも、インタビュー映像が見られるようになっています。どんなイベントなのか、イメージがよく分かると思いますので、よろしければご覧になってみて下さい。
それでは2019年秋号も、どうぞよろしくお願い致します！

「これからの時代に求められる“発見能力”」

ある記事に書いてあったのですが、人工知能には、「弱い人工知能」と「強い人工知能」の2種類が存在するそうです。このうち、「弱い人工知能」は、アルゴリズム（＝問題を解決するための方法や手順）によって動きます。これは、プログラムされた「想定内の範囲」において人知を超えるもので、将棋や囲碁で人間を凌駕しているのは、ご承知の通りです。
しかし、アルゴリズムに入力されていない想定外のこと、例えば、将棋を指している最中に地震が起きて駒がズレたとすれば、人間だったら、元に戻して再開できるところ、「弱い人工知能」にはできません。
もう一方の、「強い人工知能」とは、「精神を持った知能」、すなわち、人間のことです。この人工知能は、予めプログラムされたアルゴリズムではなく、実際に生きている世界を、それぞれ自分なりに理解することができます。
そして実は、われわれが「AI」と呼んでいるのは、「弱い人工知能」のことであって、「強い人工知能」は開発の目途すら立っていないのだとか。
そのように考えると、少なくとも現時点では、「人類がAIに支配される」みたいに（！？）、過度にAIを恐れる必要はなさそうです。とはいえ、やはり、想定内の、「誰がやっても同じ仕事」は、必然的にAIに取って代われ、お客様から、「別にあなたじゃなくても・・・」と言われてしまうのは目に見えています。
したがって今後、AIが普及した時、「お客様に価値を感じていただけるかどうか」が勝負の分かれ目でしょう。その際、重要になってくるのが、お客様の求めていることに気付いて対応できる能力、言うなれば、「発見能力」です。
弊社もまだまだですが、社員教育を徹底し、お客様から、「あなたに聞いて良かった」「あなたに気付かせてもらって助かった」「あなたがいてくれると安心だ」とおっしゃっていただき、感謝されるための能力（＝発見能力）を、組織全体として磨いていくことが不可欠だと考えています。

第29回ビジネスプラン特別講演会を開催いたしました。

9月13日（金）、「令和こそ感性・情緒・人間性の時代」というテーマで、S・Yワークスの佐藤芳直先生にご講演頂きました。
今年もたくさんの方がご参加下さいました。



佐藤芳直先生



300人近い方が熱心に聞かれました

参加された方のご感想です。

- ・日本人として、今日学んだ日本人の良い所を、もっと伸ばしていき、外国人が見たとき、見本になれるようにしたいです。
- ・未来は明るいという言葉聞いて、子供たちに自信を持って生きていいよと言えることが良かったです。
- ・言葉を尽くすと心が動かされると分かり、とても勉強になりました。
- ・素晴らしい文化を育んできた先祖に感謝し、日本人らしさを忘れず後世に伝えていけたらと思いました。

セミナー紹介

7月18日（木）に、弊社にて、NPO法人日本食育協会 評議員 上級食育指導士の山口栄延先生をお招きし、夏バテ予防の食育教室を開催いたしました。
笑い声の絶えない楽しい雰囲気でのセミナーで、参加された皆さまはとても真剣にお話を聞いておられました。



山口栄延先生



本の紹介



『役割 なぜ、人は働くのか』

著者：佐藤芳直

今回紹介させていただく書籍は、先日弊社講演会でご講演いただいた佐藤芳直先生のご著書である「役割」です。この中で能力より性格が大切である、つまり心の在り方がその人の人生を左右する最も重要なファクターであるとおっしゃっています。

自分が何の為に生まれてきたのか、何の為に仕事をするのか、失敗は何の為に起こるのか、良いことばかりでなく、悪いことにもその意味・役割がある。日常起こることすべての意味を考えながら、自分の長所を活かした生き方ができればと考えられました。そして全ての人・もの・出来事に敬意を払える一流の域に少しでも近づければと思います。



田原 智延

「“人づくり”は、れっきとした戦略です」



「戦略」というと、「長期的な時代の流れを見据えた、事業の柱をつくる」というイメージがあると思います。

これに対して、「人づくり」というと、どちらかといえば、単なる理想論やきれいごと聞こえるかもしれません。

しかし私は、これからの人手不足のご時世、「人づくり」はれっきとした「戦略」であり、全社を挙げて、長期的に根気強く取り組むべきだと考えています。

現に、都会では、需要があるのに、人手不足ゆえ閉店に追い込まれるお店が出てきている時代です。

「人さえいれば・・・」という場面は、今後ますます増えていくでしょう。

そんな中、やらされではなく、主体性のある人財が揃っているというだけで差別化できるのは、間違いありません。だからこそ、弊社の経営計画書には、「戦略の3本柱」の1つとして、「社員力」を掲げています。

また、「売上1年、利益3年、人10年」というように、「人づくり」には時間がかかるもの。したがって、社員力で差別化ができれば、それは、同業他社が5～10年は追いつけないほどの圧倒的な差を生み出すはずですよ。

「人づくり」を、「その場しのぎ」や「短期的」に捉えるのではなく、長期的戦略と位置付けてみてはいかがでしょうか。

「まずは、“自分がサボり魔だと自覚すること”がスタート」



私は、毎日ブログを書いていることもあってか、たまに、「意志が強い」と勘違いされるのですが、実は元来、相当なサボり魔です。具体的なサボり事例を書き出すと切りがないのでやめておきますが、とりわけ、自分が興味関心を持ってないことや、苦手意識の強いことに対しては、手を抜く傾向があります。社内でも、「やる」と言っても、いつの間にか「無かったことにした」企画は、数知れず・・・(汗)したがって、決して、「意志が強い」訳ではないですし、私自身、自分がサボり魔であることを、全面的に認めています。

少し話は変わりますが、以前、南海キャンディーズというお笑いコンビの山里亮太さん（＝通称、山ちゃん）が、インタビューの中で、以下のコメントを残していました。

『まずは、自分がサボり魔だって自覚することです。サボっちゃう自分を当たり前だと思う。そしたら、どうすればサボらないか…ってことに考えが回ります。ボクの場合は、「サボったらオレは終わる」という危機感をいつも持っています。』

記事によると、山ちゃんは、10年以上、ほぼ毎日、反省ノートを書き続けているそうです。天才肌のお笑い芸人かと思いきや、とても努力家だったんですね。

それはさておき、私も、山ちゃんと同じように、「自分がサボり魔だと自覚すること」がスタートだと考えています。

へたに、「自分だってやる気を出せばいつでもできる！」とか「まだ本気を出していないだけ！」とは思わない方がよいでしょう。だからこそ、ブログにしても、「毎日更新」をホームページ等で公言することによって、自分で自分に縛りをかけています。逆に言うと、縛りが無ければ、色々な言い訳をつくってサボることが、自分でも分かっているのです・・・。

また、以下も山ちゃんのコメントですが、「努力に対する捉え方」は、とても参考になります。

『努力って、目的を成し遂げる行為であり、自分の自信を保つ行為でもあると思うんですよ。「オレはこんな努力をちゃんと続けているぞ」という自信の貯金になる。毎日反省ノートを書き続ける理由も、「今日も1日頑張ったな」ということを可視化できるようにする作業なんです。その作業って意外と睡眠をよくしてくれるんですよ（笑）。だからやめたいなんて1ミリも思わないですよ。』

確かに、努力が辛く、苦しいものではなく、自分の自信を保つ行為だとすれば、努力に対してポジティブになれそうです。

そして、そうやって努力を積み重ねていくためにも、まずは、「自分がサボり魔である」と肯定するところから、スタートしてみるのもよいかもしれません。

「“粘り強さ”を手に入れ、自分を諦めない」

人間的な「強さ」というと、自ら立てた目標をやり遂げる強固な「意志力」や「克己心」をイメージされる方は多いでしょう。確かに、そうした「自分に対する厳しさ」を持っている人には、人間的な「強さ」を感じるものです。

ただし、現実問題として、それができる人は、そう多くありません。私を含め、目標を立てては、三日坊主で挫折・・・を何度も繰り返すのが、世の中の大勢でしょう。そしてその都度、「あ～、やってしまった・・・自分は弱い人間だ」と、思い悩むのです。

ただ、最近、人間的な「強さ」には、他の要素もあるのではないかと考えています。その1つが、「粘り強さ」です。

3歩進んで2歩下がったとしても、1歩でも半歩でも進めば、それでよし。何度失敗しても挫折しても、自分を諦めない強さです。これなら、別に、能力や才能に恵まれなくても、凡人の私でも、磨くことができるのかなと。

中学や高校の部活動では、3年間という期限がございますので、いくら粘り強く頑張ったとしても、努力が報われる前にタイムアップということはあり得ます。しかし、社会人には時間制限が無いため、この、「七転び八起き」の精神で、粘り強く自分を諦めなければ、どこかのタイミングで努力が花開くはず。

「粘り強さ」を手に入れ、「5年後、10年後の自分が楽しみ」と言えるようになりたいものです。

<安野からのおすすめコーナー>

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かのご参考にしていただけると幸いです！

🍄 自己啓発本「嫌われる勇氣」(岸見一郎 古賀史健 著) 🍄

「トラウマ」の存在を否定したうえで、「人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである」と断言し、対人関係を改善していくための具体的な方策を提示していくアドラー心理学は、現代の日本にこそ必要な思想だと言われています。「どうすれば人は幸せに生きることができるか？」という哲学的な問いに、きわめてシンプルかつ具体的な「答え」を提示します。初めて読んだ時には、これまでの常識が音を立てて崩れていくかのような衝撃を受けました。この本を読むことで、ご自身の中に、新たな視点が生まれるはずです。

🍄 ビジネス書「末広がりのいい会社をつくる ～人も社会も幸せになる年輪経営～」(塚越寛 著) 🍄

「会社は、社員の幸せを図りながら、世の中にできる限りの貢献をするために存在する。」そう語る著者は、会社が永続するための大切な指針として「年輪経営」という考え方を提唱、実践しています。本書は、その経営理念に基づく戦略と実践をもとに、著者の60年余りに及ぶ長い経営者人生から得た、会社のあるべき姿、経営者の歩むべき道についてまとめたものです。すべての経営者・後継者・リーダーの方々に読んでいただきたい一冊です。

🍄 映画「ショーシャンクの空に」(フランク・タラボン 監督) 🍄

ショーシャンク刑務所に、銀行の副頭取だった若きアンディが入所してきた。最初は刑務所の「しきたり」にも逆らい孤立していたが、刑務所内の古株で「調達係」のレッドは、彼に他の受刑者達とは違う何かを感じていた。2年後のある時、アンディは監視役のハドレー主任が抱えていた遺産相続問題を解決する事の報酬として、受刑者仲間たちへのビールを獲得する。この一件を機に、アンディは刑務所職員からも受刑者仲間からも、一目置かれる存在になっていく・・・。観終わった後、爽やかな感動が訪れる、不朽の名作です。

🍄 映画「きみに読む物語」(ニック・カサヴェテス 監督) 🍄

とある療養施設にひとり暮らす初老の女性。老いてこそいるがたたずまいも美しく過ごしている。しかし彼女は、情熱に溢れた若い時代の思い出をすべて失ってしまっている。そんな彼女のもとへ定期的に通う初老の男。デュークと名乗るその男は、物語を少しずつ読み聞かせている。語られるのは1940年代のアメリカ南部の小さな町の、きらめくような夏の物語・・・。純愛ストーリーですが、構成が素晴らしく、いつの間にか引き込まれます。またラストには、静かな感動が待ち受けています。